インドネシアの

伝統的な遊び

PERMAINAN TRADISIONAL INDONESIA

マリア・ベラ

クレレング

「PERMAINAN KELERENG LINGKARAN」
https://images.app.goo.gl/zxokZ4XN3iDJAhjg7

「PERMAINAN BALAP KELERENG」
https://images.app.goo.gl/borwFqa7Jqus7k8J7

「PERMAINAN KELERENG LUBANG」
https://images.app.goo.gl/H96t4rSU9XuCMy57A

クレレングという伝統的なおもちゃ

ケレレングはインドネシアで人気のがある伝統的なおもちゃである。ケレレングは丸い形をしており、通常はガラス、粘土、瑪瑙でできている。この伝統的なおもちゃは子供たちのレクリエーションや対戦ゲームとして利用することができる。

　ケレレングは個人対個人、グループ対グループのどちらでも遊べるゲームである。二人以上の場合は、プレイヤーを二つのグループに分けなければならない。負けた人は、ゲームに負けた場合、ケレレングを渡さなければならない。

この伝統的なおもちゃには、色々な遊び方がある。例えば、まず、「Permainan Kelereng Lingkaran」だ。最初は円の中心にケレレングを置き、その後、プレイヤーは円の外にケレレングを出そうとする。円の中から最も多くのケレレングを集めたプレイヤーが勝者となる。次は、「Permainan Balap Kelereng」だ。競技によく使われる。ケレレングはプレイヤーが噛むスプーンの上に置かれる。ケレレングが初期位置のままゴールにたどり着いたプレイヤーが勝者だ。それに、「Permainan Kelereng Lubang」だ。プレイヤーは最初に穴を開けなければならず、その時ケレレングを穴に入れることに成功したプレイヤーが勝者である。

アディシャ・フェブリヤナ

ネコとネズミ

このイメージで幼稚園の子供たちはネコとネズミの伝統的な遊びを遊んでいる。

インドネシアで、色々な伝統的な遊びがある。今回は、「ネコとネズミ」という伝統的な遊びを紹介していく。

ネコとネズミはグループで遊ぶ伝統的な遊びである。この伝統的な遊びの遊び方はシンプルだと思う。一人の子は猫になって、あとの一人の子は鼠になる。ネズミの子は出来るだけネコから逃げ出す必要がある。ネズミとネコ以外の子供たちはネズミを応援する。彼らは手をつないで、輪になる。

ネコとネズミは日本の子供の遊びのかごめかごめに似ている。だが、かごめかごめは鬼は目隠しをしなければならないが、ネズミとネコのネコは目を隠さない。

ネコとネズミは元々有名な伝統的な遊びだった。だが、今はあまり有名じゃない。なぜなら現在、多くの子供たちは外で遊ぶのはあまり好きではないから。

イメージのソース
http://www.sirajulhuda29zr.sch.id/2016/10/bermain-kucing-tikus-tk-sirajul-huda.html

ザラ・カミラ・フラリサンティ

ウラルナガ

インドネシアの伝統的な遊び、ウラルナガ

HTTPS://TENTIK.COM/PALING-SERU-10-PERMAINAN-TRADIS

　ウラルナガはインドネシアの伝統的な遊びである。このゲームはジャカルタからきました。ゲームの遊び方はまず、五人十色の子供がじゃんけんをする、じゃんけんに負けた二人の子供は門になり、彼らは両手をあげて門ができる。ほかの子供たちは並んで、歌いながら門の下に回す。

　ウラルナガの歌はこうだ「ular naga panjangnya bukan kepalang, menjalar-jalar selalu kian kemari, umpan yang lezat itu lah yang dicari,ini dialah yang tebrelakang」。歌はが終わったら、門が下にいる子供を捕まえて列から切り離す、捕らえらた子供は二つの選択肢のうちどちらかを選び、例えば「リンゴか？ ミカンか？ 」その子の答えはリンゴならリンゴのこの後ろに並ばなければなりません。

　それでまた歌いながら回す。列がなくなるまでゲームが続く、もうなくなるなら、門番である子供たちの後ろには列ができ、ファイナルゲームが始まる。子供たちはたちは素早く相手列にタッチする。タッチされた子供は対処しなければならず、子供がいなくなった列は負けである。

アイリナ・カリヤ

GOBAK SODOR

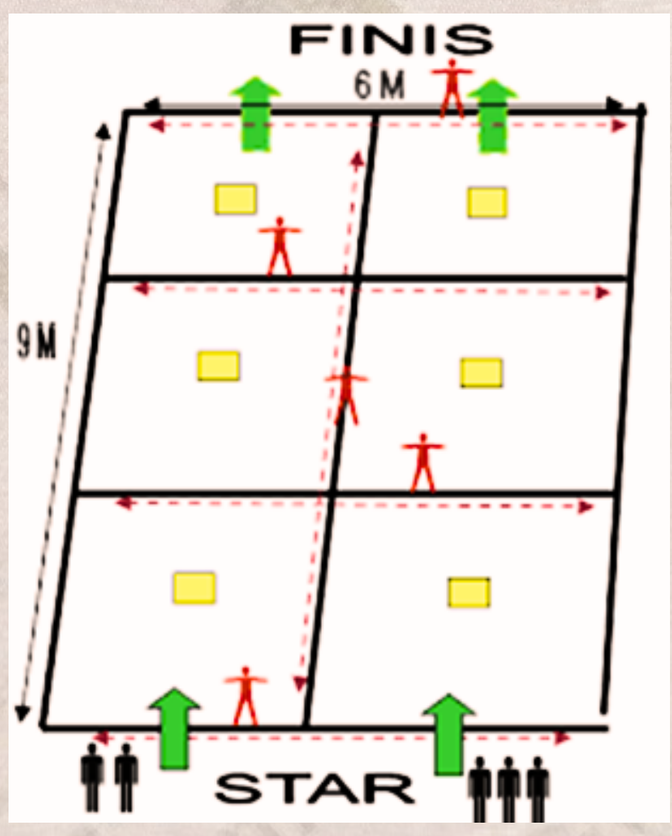
GOBAK

https://www.orami.co.id/magazine/gobak-sodor

SODOR

「Gobak　Sodor」はインドネシアのっ伝統的な遊びである。「Gobak Sodor」というのは相手のチームがゴールラインにとどり着くのを阻止する遊びである。インドネシアではこの遊びは子供がやって、広場で遊ぶものである。

「Gobak　Sodor」をやる方法はまず長方形の箱を作って八つに分ける。そして二のチームを作る。最小のチームはラインキーパになる。もう一つのチームはラインキーパにタッチされないようにゴールラインにたどり着く。ラインキーパにタッチされたら、そのプレーヤは死ぬ。けれど、ラインキーパは線から出てはいけない。



https://www.researchgate.net/figure/Gambar-1-Simulasi-Gobak-Sodor-Sumber_fig1_368791042

「GOBAK SODOR」のエリア

チームは４～６人のプレイヤーがいる。そしてラインキーパは5人で棣線と中の線を守る。けれど、中の線を守る人はただ一人だけ。「Gobak　Sodor」をやるのは難しいテクニックはいらない。けれど勝つためにはチームワークが必要。よって「Gobak　Sodor」は楽しくて簡単に遊べる遊びである。